

児童会・生徒会活動

学校行事への協力

指定校番号	28006	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立落合東小学校	校長	宅見 政子	生徒指導主事	穂山 和也
-----	------------	----	-------	--------	-------

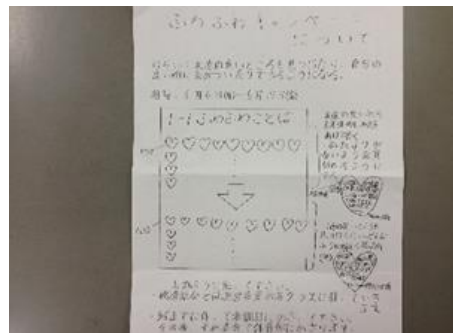
取組事例名 『平和集会への取組 ～命を大切にしよう～』

取組のねらい『キーワード 自分たちにできること』

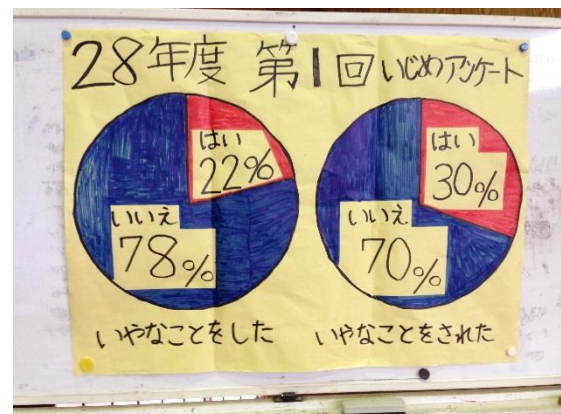
8月6日の原爆投下についてより深い認識をもつとともに、命を大切にするために自分たちができることを考え実践する。

取組の具体的内容『キーワード ふわふわキャンペーン・いじめアンケートと平和集会』

- ・6月6日～17日「ふわふわキャンペーン」
- ・ねらいは「友達の良いところを見つけたり、自分の良いところに気がついたりできるようになる」で友達の良いところを具体的にピンクのハートに書き、それを読んでから自分の良いところを見つけてもらってどのような気持ちかオレンジのハートに書いて模造紙に貼り付けた。参観日まで学級内に掲示してその後平和集会で体育館にかざった。



- ・6月20日～24日「第1回いじめアンケート」
- ・ねらいは「児童会のテーマの『安心・笑顔の落合東』にするために、友達への関わり方を振り返り改善する」で、無記名で実施した。内容はいやなことを言われたりされたりしたこと、いやなことを言ったりしたること、落合東小学校をどのような学校にしたいか、の3点。学級担任が目を通した後、児童会担当でまとめ、運営委員が平和集会で発表した。



- ・7月15日平和集会。「一人ひとりを大切にする気持ちをもつ。みんなで命の大切さや平和について考える」というねらいで実施する。ふわふわキャンペーンの模造紙を体育館の壁面に掲示したり、いじめアンケートの結果の報告があったりして事前の活動が平和集会につながっていることを児童は実感した。また、学級ごとの平和の誓いでは、身近ないじめをなくそう等の、命を大切にするために自分

たちでできる内容を披露した。各学級の平和の誓いと千羽鶴は8月6日に運営委員会で平和公園に献納しに行った。



取組の課題・創意工夫『キーワード 認め合う人間関係を育む』

- ・全体的に学校は落ち着いているけれど、トラブルがなくなっているわけではないし、いじめがなくなったわけでもない。望ましい人間関係を育む一つ的手段として児童会活動は重要な役割を担っている。
- ・7月の平和集会に向けての「ふわふわキャンペーン」などの一連の取組を通じて、平和な世界の創造という大きなテーマにも、命を大切にするために今の自分たちにできることを考える身の丈にあった流れになっている。このことが好ましい結果につながっていると考えられる。
- ・「いじめアンケート」や「平和の誓い」作りを通して、学級内で互いに認め合う話合いや折り合いをつける話合いなどがなされ、特別活動のねらいに沿った活動内容となっている。

取組の成果（効果）『キーワード 落ち着いた学校の雰囲気』

- ・児童会の平和集会に向けての取組は数年続いており、児童の間では定着してきている。その流れの中で、運営委員を中心に毎年創意工夫を加え魅力的な取組となっている。先に見える取組なので児童も安心して参加している。その結果、児童が互いに認め合おうとして努力し、落ち着いた学校の雰囲気を育むことができていると考えられる。

今後の展開『キーワード 代表委員会で決めたキャンペーンの実施』

- ・児童会運営委員を中心に代表委員会で「あいさつキャンペーン」「言葉づかいを考えようキャンペーン」「身だしなみキャンペーン」「時間までにすわろうキャンペーン」を決めて実施していった。「言葉づかいを考えようキャンペーン」は、いじめアンケートの結果などから本校においては言葉づかいに課題があると考え本年度初めて実施した。友達を遊びに誘うときと友達と体がぶつかったときの正しい言葉の使い方の例をお昼の放送で流し、期間を決めてキャンペーンを実施した。このように、学校の実態から児童が自主的・実践的に取組を考えて行う中で児童が成長していき、学校の雰囲気もよりよくなっていくと考えている。

他校へのアドバイス『キーワード 児童へのフィードバックの工夫』

- ・「ふわふわキャンペーン」では校内の掲示板上に模造紙を張り出しみんなが読めるようにした。
- ・「あいさつキャンペーン」「言葉づかいを考えようキャンペーン」「身だしなみキャンペーン」などで、運営委員からのお昼の放送を効果的に使った。例えば、「今日で言葉づかいを考えようキャンペーンが終わります。みなさん、自分の言葉づかいについて考え、良い言葉づかいができましたか。私は、教室で友達に遊べるか聞かれましたが『ごめんね。今日は用事があるから遊べないんだ』と言いました。けれど、『じゃあ、また遊ぼうね』とやさしく言ってもらいました。とてもうれしかったです。」など自分の経験を入れながらねらいを意識した話をした。

に繋がった。

- ・届け先の施設の方に大変喜ばれ、贈呈式の様子を写した写真や児童からの手紙を掲示していただいたり、施設内を見学させていただいたりして、児童との交流を深めることができた。
- ・どのクラスにおいても、プランターの花を世話してくださる施設の方や花を見てくださる地域の方を意識してメッセージを考えることができた。



- ・プランターの花の贈呈後の児童の反応は、「可部っ子花いっぱい大作戦」をやってよかったと答えた児童が91%，来年もやった方がよいと答えた児童が86%であった。

今後の展開『キーワード：広げる・深める』

- ・「可部っ子花いっぱい大作戦」の意義を学校全体に浸透させるために、学校放送を活用して、活動の意味や内容を伝える時間を設定する。
- ・花を植えたプランターを届けることで、「可部っ子花いっぱい大作戦」の活動が終わるのではなく、地域を明るくするために、この活動がどのように役立っているかを飾っていただいた施設への追跡取材を通して明らかにし、そのことを学校全体に知らせていく。
- ・「可部っ子花いっぱい大作戦」の活動をきっかけにして、多くの児童が地域にある施設への理解を深めるとともに、施設で働く人やそこを利用している人との交流を深めることができるような活動にしていきたい。

他校へのアドバイス『キーワード：変化に対応できる特別活動』

活動の規模を大きくし過ぎたり、イベント化に走り過ぎたりすると、取り組みの形骸化を招き、過度な負担感ばかりが増大し、活動自体が長続きしません。児童の実態や地域の実情に対応できるような幅のある活動を考えることが必要です。児童・生徒にとって本当に意味のある活動なのか、地域全体に貢献できているのかなど常に振り返りながら、いつでも変えることができ、機動的に取り組める特別活動を創り上げていくことが大切です。

指定校番号	28028	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度 生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立中山小学校	校長	本家 太	生徒指導主事	猪野 康二
-----	-----------	----	------	--------	-------

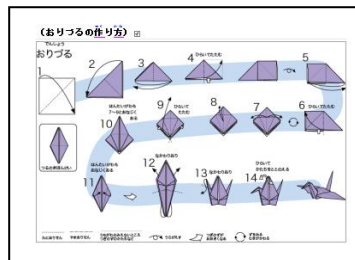
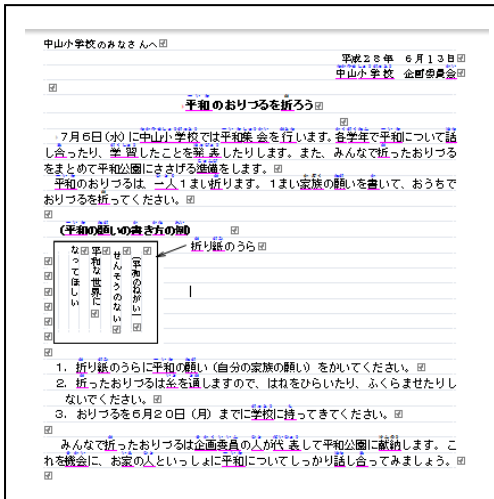
取組事例名 『平和集会』

取組のねらい 『キーワード 協力』

- ・ 平和に関する歌を歌ったり、学習したことを発表したりして、平和を願う気持ちを育てる。
- ・ 児童が協力して、作り上げることを通して集団への所属感や連帯感を深める。

取組の具体的内容 『キーワード 願い』

- ・ 学習発表
- ・ 千羽鶴の献納
- ・ 平和の歌



取組の課題・創意工夫 『キーワード 共同』

課題

- ・ 児童会行事であり、教師主導で計画が進めつつも、児童の主体性をより引き出せるようにすること。(学習発表の部分の工夫が必要。)
- ・ 集会後の生活(児童の意欲)につながるようにすること。

創意工夫

- ・ 平和ノートなど、平和学習と関連させている。(知)
- ・ 千羽鶴づくりは、縦割り(1年と6年)のかかわりや保護者への啓発(家庭に持ち帰り、共同制作)、学級でのかかわりを意識している。(協力)
- ・ 平和の歌(全校合唱)・学習発表・千羽鶴づくり(家庭制作では、紙にメッセージを書く。学級でまとめたものにメッセージをつける。)・ピースキャンドルづくり(6年)等の取組の中で、平和へ願い(メッセージ)を発信する。(徳)

取組の成果（効果）『キーワード やさしさ』

- ・各学年の学習内容・様子がわかった。
- ・集会での態度や集まるときの態度がよくなってきた。
- ・全校合唱等で、所属感や連帯感が深まった。（今年度全体合唱曲「地球星歌」）

「学校評価」に係わるアンケート調査より

- ・チャイムの合図を守って生活できましたか。 88%
- ・気持ちのよいあいさつができましたか。 87%
- ・やさしい言葉をたくさん使うことができましたか。 81%

8割以上の児童ができたと回答した。

今後の展開『キーワード 継続』

- ・日常生活の中で、活かせるように、継続して取組・声掛けを行う。
- ・表面的な行為行動だけでなく、内面が成長していることを大切にする。

他校へのアドバイス『キーワード ヒロシマ』

- ・広島市の小学校に通う児童だということを忘れず、児童の実態に合わせた活動をしていきたい。

指定校番号	28035	学級活動	児童会・生徒会活動	<input type="radio"/>	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	-----------------------	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	上安小学校	校長	山本 伸生	生徒指導主事	保田 深雪
-----	-------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『平和集会』

取組のねらい『キーワード 平和』

平和集会で、縦割りグループや地域・保護者の方も交えて、折り鶴作りをすることで、協力をすることの大切さや、平和の大切さについて考えることができるようにする。

取組の具体的内容『キーワード みんなで』

6月14日の児童朝会と7月8日の平和集会の時に、縦割りグループ（全40班）で、折り鶴作りをした。その時に地域の方や保護者の方もグループに入ってもらい、作り方を教えていただいたり、一緒に作っていただいたりした。また、上学年の児童が下学年の児童に折り方を教えながら折っていった。



取組の課題・創意工夫『キーワード 関わり合い』

工夫①異学年交流をすることで、必然的に教えたり教えてもらったりするなどの関わり合いの活動ができるように仕組む。

②地域の方に一緒に活動していただくことで、平和への多くの人の願いが込められた取組であることを意識させる。

課題①折り方をスムーズに教えたり教えられなかったりするグループがあるので担当教員が助言する。

②さらに関わりが深まるような他の取組について検討していく。

取組の成果（効果）『キーワード 平和の実感』

縦割りグループでの活動を通して、異学年で教えたり教えられったりすることで、上学年の児童は自信を持つことができ、下学年の児童は、安心して折り鶴作りをすることができた。また、地域の方が一緒に折ってくださることで、交流も深まり児童全員が安心して取り組むことができた。異学年の児童や地域の方と協力して折り鶴を折る活動を行うことで、『平和』を体感することができる取組となった。

本校の学校評価アンケートで、学校が楽しいと感じている児童や保護者が9割となっているが、異学年での交流もその要因の一つであると考えられる。



今後の展開『キーワード なかよし』

縦割りグループでの体験を他の場面でも利用していくために、普段より20分程度長い昼休憩に、グループでの遊びを行うことにした。いろいろな活動で異学年交流を仕組むことにより、それぞれの児童が自己存在感を高めていくことにつなげていきたい。

他校へのアドバイス『キーワード 気軽に』

縦割りグループの活動は、時間の確保や、事前準備などが大変で、取り組むのが困難なイメージがあるが、いろいろな行事に組み込むことにより、活動に要する時間や事前の準備を可能な限り押さえた上で、効果的にねらいを達成することができる。



指定校番号	28038	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立矢野小学校	校長	玉井 二郎	生徒指導主事	吉野 隆治
-----	-----------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『あいさついっぱい大作戦』

取組のねらい 『キーワード 「あいさつ」 で みんながなかよしの矢野小学校にしよう』

いじめ防止強化月間の一環として、挨拶の意義を考え、進んで挨拶ができる児童を増やすことを目的に「あいさついっぱい大作戦」を実施し、いじめの未然防止に資する取組をしていくとともに、いじめのない学校風土を築く。

取組の具体的内容 『キーワード 「あいさつ」 いっぱい』

あいさついっぱい大作戦

① あいさつ運動

9月1日(木)・2日(金)・5日(月)・7日(水)・15日(木)の5日間、「あいさついっぱい大作戦」のタスキをつけ、執行委員や3学年以上の学級代表が分担して、靴箱や校門に立って挨拶する。

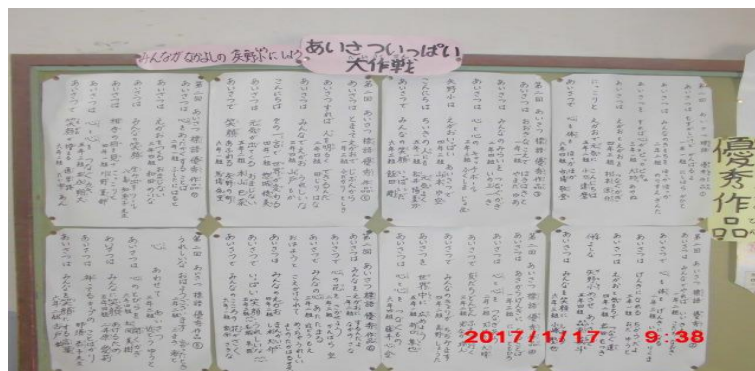


② あいさつ標語運動

挨拶標語を全校児童に募集する。(今年度は、1回目は、9月1日(木)～9月9日(金)。2回目は、9月20日(火)～9月30日(金)に実施した。)

募集ポストは、執行委員の児童が準備する。

応募されたものから優秀作品を選び、職員室前・北校舎 1F 西・中央・東の掲示板で紹介する。



③ その他

「あいさついっぱい大作戦」を始める前の全校朝会で、生徒指導担当の教員が、取組の意義「皆が安心して過ごせるいじめのない矢野小学校にしよう」や挨拶の仕方、挨拶標語募集について説明を行う。

教職員も意識して挨拶をして模範を示す。

各学級でも朝の会や帰りの会で挨拶のことを話題にして児童の意識を高める。

取組の課題・創意工夫『キーワード 取組を広める』

創意工夫

① 校内放送で優秀作品を放送

応募した標語から各担任の先生にクラスの優秀作品を選んでもらい、それを全校生徒に向け給食時間に執行委員の児童が読んで全校児童に知らせる。選ぶ作品については、担任の思いを大切にし、指導に活かせるよう、様々な視点から選ぶようにする。

② 学校便りやHPで「いじめ防止取組強化月間」の取組を紹介し、地域や保護者に学校の取組を広め、理解と協力を得られるようにする。

(学校だより10月号より一部抜粋)

○ あいさついっぱい大作戦

9月は広島市が制定した「いじめ防止取組強化月間」でした。本校では、その一環として、児童会が企画した「あいさついっぱい大作戦」を行いました。「あいさついっぱい大作戦」と書かれた水色のタスキを掛けた代表委員の児童が靴箱付近で元気のよい「おはようございます。」を響かせていました。また、あいさつ標語の募集では、たくさんの素敵な標語が集まりました。給食放送で紹介された標語の中からいくつかの作品を紹介します。

こんにちは	ひとりのえがおで	みんなもえがお	(1年)
あいさつは	みんなの心が	きもちいい	(2年)
あいさつで	みんなの心に	花がさく	(3年)
あいさつは	心をみがく	あい言葉	(4年)
あいさつは	人と通じる	魔法の言葉	(5年)
顔上げて	あいさつすれば	笑顔咲く	(6年)



課題

教師が発案し始めた取組であるため、児童に発案を促したり、児童の発案を生かしたりすることが難しい。

取組の成果（効果）『キーワード 進んで挨拶』

児童に実施したアンケートの中で、「すすんであいさつをする」児童の割合が、6月の時点では全校児童の74パーセント（480人）であったが、取組を進めた9月には全校児童の78パーセン（506人）と高まった。また、多くの地域の方から「矢野小学校の子どもは、よく挨拶をする。」という話を聞くことができるようになった。

今後の展開『キーワード みんなで気持ちのよい挨拶ができる学校風土』

学校経営計画の重点指導事項に挨拶にかかわる指導を位置付けており、年間を通した取組が予定されている。執行委員の児童を中心とした「あいさつ運動」は年間を通して行っていく、児童に挨拶を励行する言葉掛けや指導を時機適切に行っていく。「あいさついっぱい大作戦」で取り組んだ標語を継続して掲示し、みんなで気持ちのよい挨拶ができる学校風土を培いたい。

他校へのアドバイス『キーワード 児童とともに』

「安心して過ごせるいじめのない学校にしよう」は、どの児童も納得できると思う。

その実現には、児童の力なくして実現できない。児童の思いを生かしながら、児童に出番を用意しながら、児童とともに取組を進めていきましょう。

指定校番号	28059	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	三原市立田野浦小学校	校長	杉原 禎也	生徒指導主事	東 英治
-----	------------	----	-------	--------	------

取組事例名 『ゼロ・プロジェクト そうじ時間おしゃべりゼロ』

取組のねらい『キーワード きれいな学校 三原一』

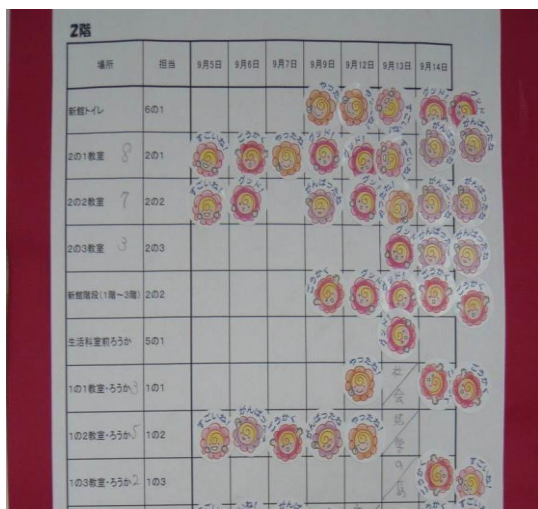
- ・掃除を徹底して行い、学校をきれいにする。
- ・集中して黙って物事に取り組む力をつける。

取組の具体的内容『キーワード みんなで取り組む』

- ・学級担任は、児童に掃除の仕方を事前に指導する。
- ・全教職員が率先して掃除を行い、範を示す。(教職員も一言もしゃべらず掃除をする。)
- ・「ゼロ・プロジェクト」週間に児童会役員が担当場所を点検し、がんばり表にシールを貼る。

取組の課題・創意工夫 『キーワード 行動力につなげる評価』

- (1) リアルタイムの評価
- ・点検の方法は、児童会役員が前後半に分かれ、分担して行う。
 - ・前後半ともに合格であれば、がんばり表にシールを貼る。
 - ・掃除終了時に、点検した児童会役員が、特にがんばっていた学級を校内放送で紹介する。
(例)「今日、特に掃除時間、集中してがんばっていた学級は、1年2組、2年1組、4年2組です。」
 - ・掃除終了直後に、児童会役員が、がんばり表にシールを貼る。
- (2) 評価の見える化
- ・できた掃除場所ごとにシールを貼り、児童のがんばりを評価する。
 - ・最終日には、おしゃべりゼロの掃除場所に、シールを2枚貼ることを、前日と当日の掃除開始時に校内放送で伝え、やる気を促す。



今日もシールが貼ってあるよ。やったね。明日もこの調子でがんばろう。

これで7日間連続シールがあるよ。パーフェクトだ。

(3) 全校朝会で表彰

- ・がんばり表を集計し、第3位までの学級を紹介し、全校の前で紹介する。
- ・呼ばれた学級は、全員返事をして起立することで、達成感や満足感を味わわせる。
- ・1位から3位まで、シールの数が同数の場合でも、複数の学級を表彰することで、他の学級にも意欲をもたせる。



【第3位までの学級を紹介】

ゼロ・プロジェクト（12月の結果）

第1位…1年2組，2年1組，2年2組
2年3組，ひまわり1組・2組

第2位…1年1組，1年3組

第3位…4年2組

※シールの数が同数のため複数の学級を表彰



【トロフィーを渡し表彰】



【学級全員で達成感を共有する】

※学級・学年通信で保護者にも周知し，
家庭での評価につなげる。

取組の成果（効果）『キーワード 教職員・児童みんなで』

- ・学級の取組だけでなく，学年で黙って掃除することの目的を確認し，11月・12月は第1位・2位を，1年生・2年生の全学級が独占した。
- ・校内放送によるリアルタイムの評価と，がんばりシールを貼って評価の見える化を行ったことで，さらなる意欲や行動力につなげることができた。
- ・「くらしのスタンダード」に掲げている「黙って掃除している」項目において，4月のアンケート結果では，教職員と児童の肯定的評価の差が35%であったが，12月のアンケート結果では，差が2～3%になった。

※12月のアンケート結果：教職員（95.2%） 児童（92.5%） 意識の差（2.7%）

今後の展開『キーワード 学級から学年，学年から全校へ』

- ・児童会役員が努力を要する学級に行き，担任・児童に伝える。
- ・教職員もともに，掃除時間，隅々まで時間いっぱい集中して取り組む。
- ・「黙って掃除すること」を全校でやり切る。そのために，教職員が「やり切らせる指導」をやり切る。

他校へのアドバイス『キーワード 一点突破の取組』

- ・改善していく部分はあるが，ポイントを一つにしぼり，一点突破の取組を進めていく。
- ・児童も教職員もみんなで目標に向けて取り組んでいく。
- ・リアルタイムの評価で学級が固定化しないよう，校内放送の在り方を工夫し意欲や達成感をもたせる。

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	福山市立加茂中学校	校長	藤田 岳士	生徒指導主事	馬屋原 浩之
-----	-----------	----	-------	--------	--------

取組事例名 『自律的活動を促す特別活動』

取組のねらい『キーワード 自律的活動』

「自律的活動」を促すことを通して、自己肯定感を高め、社会に貢献できる生徒を育成する。

取組の具体的内容『キーワード 関わり合い』

文化祭（学校行事）



花いっぱい運動（地域行事）



加茂川一斉清掃（地域行事）



敬老会での接待（地域行事）



取組の課題・創意工夫『キーワード 振り返る・伝え合う』

課題は、表の①②より、自己肯定感や所属・承認意識に係る肯定的評価が 80%に満たないことである。
(学校評価アンケートより)

	項目	全体（3年生）5月
①	自分には、よいところがあります	79.7 (77.2)
②	自分のよさは、まわりの人から認められていると思います。	68.6 (66.3)

工夫点

文化祭の取組中の学活の授業で（3年生）



振り返り

振り返りの視点

- ・自分や他の人が頑張っている点
- ・さらに、取組（ミュージカル）の質をあげるためには、何をどのよう改善すればよいか。

伝える

- ・振り返った点を伝える。



取組の成果（効果）『キーワード 自己肯定感, 所属・承認意識 』

成果

(1) 下記の表より、5月と12月を比較すると、3年生の自己肯定感は、約11ポイント、所属・承認意識が約13ポイント増加した。(学校評価アンケート)

	項 目	3年	
		5月	12月
①	自分には、よいところがあります	77.2	88.3
②	自分のよさは、まわりの人から認められていると思います。	66.3	79.8

(2) 地域行事である「花いっぱい運動」では、行事当日に、生徒自ら、「集合の指示は、私がしましょうか」と言い、集合や作業場所等の指示を行った。

(3) 地域行事は、広島県中学校体育連盟の試合と重なる時もあったが、試合のない生徒が多く参加し、地域の方からも「試合があるのに、大勢の方に参加してもらって助かります」という声があった。



今 後 の 展 開『キーワード 振り返る・つなぐ 』

学校評価アンケートより

内容		5月	12月
校内や地域等でのボランティア活動の意義等を考えながら、積極的に参加している。	1年	61.5	58.5
	3年	65.9	69.9

・参加している1年生は、5月に比べ、11月の地域行事等では増加しているのに、項目に対する肯定的評価は下がっている。つまり、「ボランティア活動の意義等を考えながら」という点に課題がある。このことから、「行事だから参加する」という意識を変え、活動内容等の質をあげるために、ボランティア活動においても、その活動の意味を振り返るという場面を仕組み、より「自律的な活動」へと導いていく必要がある。

他校へのアドバイス『キーワード ねらい・振り返り・活動のつながり 』

①「振り返る・伝える」活動を仕組む。

そのためには、まず「目的に対して、振り返りの視点を具体化する」

次に、「活動内容を考える時には、目的が振り返りにつながるかをポイントにする」

②地域とつながるための校内の組織や仕組みをつくる。

地域に出向き、地域のニーズや活動を知る。そして、地域とタイアップできる校内組織や仕組みをつくる。

指定校番号	28104	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校

「特別活動の取組事例」

学校名	海田町立海田中学校	校長	津田和也	生徒指導主事	京谷隆宏
-----	-----------	----	------	--------	------

取組事例名 『体育祭、文化祭に向けて』

取組のねらい 『キーワード 規律ある集団としての行動』

- 各行事における取組を通して達成感・成就感を味わわせ、自主的・実践的な態度を育てるとともに、規律ある集団としての行動を体得させる。
- それぞれの取組を通して責任感や連帯感を育て、学級内での共感的な人間関係の構築、自己存在感を確立させる。

取組の具体的内容 『キーワード 各々の存在感と責任感』

1 体育祭における取組

- (1) 学級を単位として多くの競技に取り組みせ、他の学級と競い合うことを通して、一人一人に学級の所属意識を持たせるとともに、責任感・存在感を持たせる。
- (2) 全学年を縦割りして組集団として取り組みせ、3年生をリーダーとして1・2年生を引っ張っていくことにより、3年生のリーダー性や1・2年生の集団に対する所属意識を育むとともに、人間的なふれあいの中で、自分を律する態度や能力を育てる。



2 文化祭における取組

- (1) 合唱コンクールの取組を通して、一人一人に役割や使命感を持たせ、「学級の一員」としての自覚を高めることで、規範意識の向上を図る。
- (2) モザイク画の作成を通して、学級内の人間的なふれあいの中で、生徒個々の存在感や責任感を育てる。



取組の課題・創意工夫『キーワード 課題を採点項目に』

学級や学年の取組により、課題を抱えている生徒の多くが行事に参加することができた。しかし、一部の生徒は容儀面や態度面で課題が改善されず、そういった面での指導に偏ることもしばしばあり、行事への参加自体が危ぶまれる状況もあった。

そこで、学校生活における理想的な姿を基準として服装の乱れを点数化し、採点することにした。学級の一員としての自覚に働きかけることを行い、自ら服装を正すことにつながるよう取り組んだ。



取組の成果（効果）『キーワード 生徒同士の自治能力向上』

自分の違反が所属学級の採点に影響を及ぼすといった意識が芽生えた生徒は、自ら服装を正し、意識しにくい生徒も学級内のお互いの声かけにより、概ね改善が見られた。服装面の改善に伴い、態度面にも、徐々に変容が見られた。

また、教職員の7割が取組に対する効果を実感しており、教職員の生徒指導に対する意識の向上に繋がった

今後の展開『キーワード 生徒からの発信』

各行事における生徒指導上の取組については、生徒の参加意欲が高いため、成果が顕著に表われる。これらの取組を日常的に仕組むことで、生徒相互の関わり合いから生徒指導上の課題が改善されるよう進めていきたい。

他校へのアドバイス『キーワード 教員のチームワーク』

- 短期集中型の取組において、なかなか成果の上がらない学校もあるが、生徒指導主事の取組に向けての「発信」に対して、本気で賛同し行動を共にできる教職員を一人でも多く増やしていくことが大きなポイントになる。これは生徒指導主事自身の働きかけの課題でもあるが、どんな取組でも「本気で動く教職員」の数を増やすことで成果も上がり、生徒自身の中にも善悪の判断ができるようになるなどの判断が見られると考える。
- 生徒が関心を持っていることをうまく活用して課題解決に向けた取組を進めることで、即効性は期待できないまでも、徐々に解決の糸口が見えてくると考える。粘り強く今後の成長を見据えて様々な取組を計画的に進めることが大切と考える。

指定校番号	28110	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立栗原中学校	校長	宮里 浩寧	生徒指導主事	高尾 真吾
-----	-----------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『行事における主体的な取組の場の設定』

取組のねらい 『キーワード 主体的で創造的な取組』

生徒が主体的に取り組む場を設定することにより、3年生のリーダーシップを育てる。また、新しいことに挑戦する意欲を持たせて成功体験をさせることにより、自己肯定感を高めるとともに、栗原中学校の新たな伝統を創造する。

取組の具体的内容 『キーワード 3年生のリーダーシップと協力』

- ・ 体育大会の縦割りチームの取組において、それぞれのチームのアピール時間（応援合戦）を設定した。昨年度よりも時間を延ばし、条件も広げて、より生徒たちの工夫が反映されるようにした。内容については各チームの3年生が中心となって考え、1・2年生に指導した。
- ・ 文化祭において、3年生が自分のクラスのアピールをする時間を設定し、この発表においても時間を昨年度より1分間伸ばし、より、自分たちの思いを表現できるようにした。
- ・ 文化祭で、栗原中学校創立70周年記念バッチをPTAと協力して作成し、全校生徒に配布した。



- ・ 文化祭において、初めて全校合唱を取り入れ、「Let's search for tomorrow」を合唱し、歌声を体育館に響かせた。

取組の課題・創意工夫 『キーワード 条件の設定と教員のサポート』

課題

- ・ 取組に向けての時間の確保

創意工夫

- ・ 体育大会の応援合戦の取組においては、各チームのリーダーが集合する時間を毎日設定し、生徒会執行部と一緒に全体への指導や声かけをした。また、担当教員とともに進捗状況を確認し合い、時間・練習・内容についての条件を統一した。
- ・ 生徒に全てを任せて放任するのではなく、統一した条件の下、生徒が自分たちで創り上げたと思えるように、生徒の様子をしっかりと見ながら、トラブルが起きないようにサポートした。また、時間の確保や準備物のサポートなどをしながら自主的に活動させた。
- ・ 文化祭の表現活動については、あらかじめ時間や内容についての条件を設定し、その中で各学級の担任・生徒が創意工夫をし、取組を進めた。

取組の成果（効果） 『キーワード 一体感』

・体育大会の応援合戦の取組を通して、3年生が1・2年生を引っ張っていかうとする姿が見られた。1・2年生もその姿を見て、3年生への感謝の言葉や賞賛の言葉がアンケートから見られた。また、時間が延びて表現の条件も広がったことで、昨年度よりも良いものにしていく姿勢が見られた。



・文化祭でのアピールタイムでは各学級の創意工夫が見られた。ここでも発表時間が延びたことで、「夢」をテーマにより多くのことを伝えようとする姿勢が見られた。どの学級も自分たちのカラーを十分に出して表現していた。また、それらの発表を1・2年生が真剣に見ていた。

・全校合唱では初めての取組であったが、見ている人すべてが感動に包まれるような一体感のある歌声を披露することができた。保護者アンケートでも全校合唱への良い評価が多かった。



・学校評価に係わる生徒アンケートでは「栗原中学校には生徒が自主的・主体的に活躍できる場面があります」という項目で1学期・2学期の平均が77.2%であった。

今後の展開『キーワード 創造と挑戦』

・これらの取組はほとんどが生徒会執行部の提案から実現したものである。自分たちが提案したことが認められて、生徒会執行部をはじめとする3年生はリーダーとして大きな達成感を得ることができた。これらの取組を新生徒会執行部が引き継ぎながら、新たなことにも挑戦させていきたいと思う。また、行事だけでなく、日頃の生活の場面においても、主体的な取組の場を設定していく。

他校へのアドバイス『キーワード 教職員の関わりと評価の仕方』

・生徒にすべて任せて何でも自由にさせるのではなく、条件を設定して、その中で考えさせることにより、生徒自身の創意工夫が生まれると考える。

・教員は、側面的支援（見守り、アドバイス）をし、共に頭を悩ますことにより、信頼関係が生まれると考える。

・生徒のがんばりに対する評価は、口頭だけではなく、目に見える形で評価したり、全体で紹介するなどして、自己肯定感が高まるように工夫することで、より主体的な行動が見られると考える。